

多摩市 気候市民会議

第5回 まとめ・振り返り

とりまとめを確認しよう・気候市民会議を振り返ろう

開催レポート

日時:2023年 7月 29日(土) 13:30~17:00

場所:多摩市役所



当日のプログラム

第5回 まとめ・振り返り

とりまとめを確認しよう・気候市民会議を振り返ろう

項目	時間(分)	概要
開会	13:30 (5分)	あいさつ: 多摩市長 阿部裕行、江守正多 本日の進め方の説明
とりまとめの共有	13:40 (20分)	前回の振り返り、市民提案(素案)の共有
市民提案の確認・ ブラッシュアップ	14:00 (60分)	グループ別意見交換: 市民提案のブラッシュアップ
	15:00 (20分)	全体共有
	15:20 (30分)	全体議論: 市民提案のとりまとめ
	16:00	市長へ市民提案の提出・集合写真
	16:10	休憩 (10分)
振り返り	16:20 (15分)	チェックアウト: 振り返り・共有
来年度の予定	16:35 (5分)	今後の予定について
総評	16:40 (20分)	全5回の総評: 江守正多、棚橋乾、山下紀明
閉会挨拶	17:00	あいさつ: 多摩市長 阿部裕行 アンケートの記入

市民提案の「全体方針」へのご意見

凡例 | 1) 全体方針 (案) | ●方針の説明 (案) | ・内容へのご意見 | ▶決まったこと

1) 脱炭素の実現とともに豊かな暮らしを実現しよう

- ・豊かとは何か、「より豊か」、「上質」
- ・心の豊かさを含めて実現しよう
- ・「豊か」＝クオリティ高い、上質な
- ・デジットや税制など、インセンティブが欲しい

●気候変動対策をすることで、みんなが笑顔になる

- ・なぜ笑顔になれるのか、ワンクッション説明が必要である
 - ・気候変動対策は CO2 の削減だけではない。生活が良くなったり、健康寿命が伸びたりなど、コベネフィットという概念があることを伝える
 - ・「脱炭素」と「豊かさ」が対立しているのではなく、両立を目指したい
- ▶消費社会の豊かさではなく、上質さを目指す方針にする

●楽しい気持ちで、我慢せずに継続できる対策を進める

- ・ポジティブにやっていくという事を大事にする

2. みどり豊かな環境を活かそう

●多摩市の魅力でもある「人工と自然の緑」を楽しみながら活用する

- ・初めて見た人が「人工」とはどういう意味か？と思うのでは
 - ・人工のみどり＝人々が育てた、植林したみどりの事
多摩市のみどりは自然なのか
ひらがなの「みどり」作られたみどり、水も含めた表現
 - ・「開発と自然の協働」の方が良いか？
 - ・「楽しみながら」は管理として人々が関われるという意味
- ▶身近なみどりに人々が関われるというニュアンスにする

●人間と動植物が共存しつつ経済が発展しているまちに

3. 協働で実施しよう

- ・住民、企業、行政、教育機関など世代を超えたコミュニティによる「協働～」に表現を加える
- ・「協働」＝「ともに取り組もう」

▶「住民、企業、行政、教育機関などで共に取り組もう」にする

●地域コミュニティが世代を越えて、緑の保全や管理、気候変動対策を推進する

●住民、企業、行政など様々な主体がそれぞれの役割を果たすとともに、協力しながら一緒にまち全体に対策を広げる

▶主体の一つに「教育機関」を追加する

4. みんなが誇りを持てるまちにしよう

- ・この方針はいらぬのではないかな？

▶ブランディングとして、この方針は残したほうが良い

- ・「みんな」とは外の人なのか、多摩市民なのか
- ・「持てる」はネガティブではないか
- ・すでに誇れているので周りが憧れるまちに

「誇りを持てる」自らの主体性のある言葉。「憧れる」人目を気にしているニュアンス

▶2つの要素を併記する

▶「持てる」を「高められる」に変更する

●気候変動対策で若い人に「住みたい！」と思ってもらえる多摩市に

- ・外部の人に対してアプローチをする
- ・「みんながより住みやすくなれるまちにしよう」にしては？
- ・「若い人」だけではないのでは？

●多摩市の暮らしを、クールでかっこいい新たなライフスタイルとして広げていく

- ・多摩市内部の人に対してのアプローチをする
- ・「クールでかっこいい」は客観的じゃないので取る
- ・「クール」は大事であり、多摩市の暮らしを自慢できるようにしたい

「5.すぐ始めるスピード感を持つ」を追加する

- ・初めのステップを何から始めるかを明確に
- ・そもそも今すぐ取り組まないと30年後は実現しない

2023 7/29

総評

江守先生
・7ツツリ-ツコンカ上りだした!
・市長が...と参加している事も...
・参加している市民の皆さんすごい!

全体議論を拝見し熱いものを感ずる
・くらしと民主主義の新しい一歩となった
・12人の新しい日本人(映画) → 個性がわかる人が
　　読める...の描き描いた
　　映画 今見ると面白い

今後の提案がどう活かされていくのかよく見てほしい

新しい事は
何となくか
き... 知る...
・オツツリ-ツコンカもあるものもある!!
・似たりよったものもある!!

このイベントは
関心を持続してほしい
→ SNSで770-770... 770-770...
特に今年着く世界時に注目してほしい
↓
もっと海をくわす!!
↓
社会を動かすには770-770
11278111

気候市民会

日本でもっと広がりつつある
次に他自治体で開かれる会
活かされて!!

日本の気候民主主義を
さらに発展させる
ことにつながる

山下先生

- ① 地球に合わせた
了行がたかたか出た
- ② 良い意味で欲張り!
みんなで作るべきものがある!!
→ 770-770... SDGs
- ③ このあと、原則を覚えることか不承
- ④ 民主主義の(770) 話がある、話がある
国を770... ことへの感=教
- ⑤ 自分たちの意見がどうも反映していか
しつかり進めたい!!

棚橋先生

三上先生
「気候民主主義」
フランス事例... → 日本でもできる?
ほりこがた (1111, 1111, 1111, 1111)

多摩市でどうなのか?
実現を感ずる
意志の問題は
大切!!
技術面では
有るが実現
は難しい

若者の中に
あつ「770」
と「770」の差... 770-770... 770-770...
770-770... 770-770... 770-770...
770-770... 770-770... 770-770...

今時
770-770...
全体物に770-770...
770-770... 770-770... 770-770...
770-770... 770-770... 770-770...
770-770... 770-770... 770-770...



- ファシリテーションが上手だった。
- 市長が全5回参加している気候市民会議は私は初めてだった。これも非常にすごいこと。
- 参加している市民の皆さんがとても素晴らしかった。今日久しぶりにこの会場で皆さんが議論している姿を見させていただいて、さまざまな世代のさまざまな立場の、普段あまり話をしなそうな方がこうやって議論している。話の得意な人もいればそうでない、あんまりそうでない人もいるかもしれない中で**さまざまな議論をされているところが素晴らしかった**。
- 全体議論を拝見して熱いものを感じた。このくじ引き型のこういう会議は新しい民主主義の形であり、民主主義の実験であるというような見方がある。その事例がここに一つできたと思って本当に参加された皆さんに感謝したい。
- 陪審員制度をテーマにした、属性が異なる人が話し合う様子を描いた映画があるが、今見るとより面白く、自分ごととして感じられるのではないか。
- **今後、皆さんの提案がどのように活かされていくのかをよく見ていただきたい**。市の権限であったり、もしかしたら予算だったり、さまざまな事情で提案内容をそのまま実現できないことがあるかもしれませんが、それはなぜできないのかということをちゃんと市に聞き、知ることが大切。
- 研究でさまざまな他の気候市民会議も出させていただいて、どのような提案が出てきたかっていうのを一通り眺めている。皆さんにすごく議論していただいて出てきた提案は、すごくオリジナリティのあるのもあれば、他の地域とも似たり寄ったりする部分はどうしてもある。
- それは、他でも出てきたからあまり意味がないということでは決してない。似たようなアイデアかもしれないが、**この気候市民会議の皆さんが議論して出てきこと自体にすごく意味がある**。この間、市民がしっかり議論して出てきましたと。いうことになれば、やっぱりその行政のプロセスの中で尊重してそれが動いていくと、そういう意義を皆さんの議論は持っていると思う。
- ですので、すごく新しいアイデアも素晴らしいし、必ずしもそうでないものもあったとしてもそれはそれで非常に素晴らしい。皆さんが議論して出てきたということ自体が素晴らしいと思う。
- これをきっかけに、**気候変動問題に関心を持ち続けてほしい**。SNS でフォローする。ニュースをチェックするなど、アンテナを立て続けてほしい。
- 特に今年は暑く、世界的に注目を浴びているが、これから数十年から見ると、まだまだ序の口ということに残念ながらなっていく。これから世界中でさらに深刻さを増していく問題。
- そこぜひアンテナを向けて、そのときそのとき、自分は何ができるということ、自分の生活の中でやるだけではなくて、周りの人と話すとか発信するとか応援するとか、ぜひこれからも皆さんの受け取った情報をもとにして、**社会を変える動きの一部になっていただきたい**と思う。
- 気候市民会議は日本でももっと広がっていくので、次に他の自治体で開かれる会議に活かされていくはず。日本の気候民主主義をさらに発展させていくことにつながる。

棚橋先生



- 三上直之先生の「気候民主主義」という本で紹介されているフランスの事例がすごかった。当初は、日本で同じことができるのか？川崎市や札幌市で実施されていたが、多摩市でできるのか？とっていたが、実際に実現することができて、とても感激した。
- **意識の問題はとても大事**だと思う。気候変動に対して、例えばエネルギーの問題とか、それから廃棄物の問題に対して、技術的な解決策はかなり確立している。でもそれをなかなか世の中は採用しない。それはしがらみもあるでしょうし、お金の問題もあるでしょうしさまざま。
- でも、「やっていこう」という**意思があれば変えていける段階**になってきている。それはやはり意志の問題。なので、こういう機会を通して、少しでも多くの方がそういう気持ちを持っていただくことが大事で、それが広まっていったら良いなと思う。
- 新聞の一面に「エコ不安」という記事が載っていた。例えば温暖化、マイクロプラスチックなど、そういった環境問題を中心に若者の中に、このままで大丈夫なんだろうかっていう心配する、そういう若者が増えている。気候市民会議などの場を通じて、どうしたら良いかを考え、つかんでいくことが大事だと思う。
- **考えて知るだけではなく、アクションが求められる時代**。アクションは、個人でできるものもあれば、社会でやっていかなきゃいけないこともある。気候市民会議はどちらかという、社会でアクションする方法をみんなで話ししようということだったと思うが、その両面・両軸で、少しでも住みやすい地球になっていくように、より良い多摩市になっていくように、みんなで取り組めたらいいなと思う。
- ぜひ市民会議で話し合ったことを一つの糧にして、これからの生活に生かしていただけたらと思う。

山下先生



- **地域に合わせたアイデアがたくさん出た**ことが素晴らしかった。私達研究者は、標準的なレシピは知っているけれども、その地域に合わせた味付けはなかなかできないので、それを皆さんがすごく反映されたと思う。私達が思いつかないようなアイデアや、多摩市に根ざした、多摩市の特性に応じた具体的に積極的なアイデアがたくさん出てきたと思う。
- **良い意味で、みなさん欲張りになった**。この内向きで環境主義になっちゃうと、自分が頑張らないと、ってなりがちだが、この間の議論を通じてみんなでやったらこんなこともできるんじゃないか

とか、地域の誇りを高めていくことだとか、インクルーシブだとか、CO2 だけじゃないところで生活やまちに良い影響が出るようなことがたくさん出てきた。SDGs の課題などとも繋がってきているという意味ですごく素晴らしい提案が出てきたし意見も活発に出ていて、すごいと思った。

- **この後も続くという考え方を覚えておくことが大事。**この会議は終わったが、この後ずっと人生に大事な原則とか考え方を覚えていただくことをお願いしたい。なぜかと言うと、学生できること社会人になってできること、家を買うときにできることはいろいろ違う。なので、長く覚えておいてほしい。でもそのとき、知識だけではなく、考え方や、議論した経験、みんなで新しいものを作っていく、そういうところをぜひ覚えておいていただきたい。
- **とはいえ、民主主義にはコストがある。**民主主義は時間もかかるし、大変でだが、その分話し合っ
て学び合っ、たまには意見も揺れながらも、全体としてやっぱり高まっていくんだなと目の当たりにして、すごく感激した。そういうものはまたいろんなところで皆さんの経験だったり、多摩市の行政との繋がり生きてくると嬉しいと思う。
- **皆さんの意見を受けて、いかに反映させていくかしっかり進めていきたい。**ここからの事務局と、多摩市環境みどりと環境審議会の委員としての私の仕事がまた本格的にスタートする。皆さんの貴重なご意見を市の取組の中にいかにうまく反映させていくか、私も頑張っていきたい。

グループワークの成果

食・消費グループ

グループ
テーマ
多摩市環境市民会議 | 第5回 | 2023年7月29日

1 食・消費

他のグループからのコメント

- ・企業より先に個人が動くことは大切
- ・地産地消は大切
- ・多摩市なら地産地消が100%できるということに共通
- ・生産者のアピールの場を作った
- ・地産地消はやっぱりJAのネームバリューが強いので、JA運営のレストラン（地元の食材を扱う店とかあるといい
- ・地産地消の産について、これは**スーパー会社**がやるのが流行が必要
- ・地産地消に加えて、生産「即」消費で、新鮮な採れたて食材が市場で買える仕組み
- ・長く使えるものをつくるという考えがとても良いと思いました
- ・**フリーマーケット**の設置にはお金がかかると思うのですが、そのへんはどうなのですか
- ・複数つくるのであれば、このあたりにつくるか

食・消費

私たちに環境市民会議は、

- ・次の世代のことを考えた選択をするように、一人一人の意識を改革することを大切に
- ・食と消費からカーボンフットプリントを減らすことを目指す
- ・行政主導で、企業の行動を変えざるを得ない状況に導くこと、環境に与える影響について企業の情報公開を求める

30年後(2050年)に向けたロードマップ

2025年

- 環境に配慮した食品等を買う
- 食品・農産物を減らし、増やす
- 地産地消の農産物や加工品を増やす
- モノを長く使うために、全てのモノに耐用年数（消費期限がイメージ）を設定し、修理保証を充実させる
- 市内のどこでも水筒の飲み物サーバーが設置される
- 市内企業に中として環境に配慮する情報公開を求めるルールをつくる
- 環境に良いものを作ってもらえる

2050年

- 多摩市で可能な限り自給可能な食料の供給率を50%にする
- 多摩市で可能な限り自給可能な食料の供給率を50%にする

協働の体制とそれぞれの役割

消費者行動の促進・喚起	協働の体制とそれぞれの役割
<ul style="list-style-type: none"> 「買ければよい」からの脱却 環境に配慮した商品を選ぶ 環境に関する市民のニーズを行政、企業にPRし伝えていく 	<ul style="list-style-type: none"> 連携体制づくり（設備の導入） 農産物の供給 地元の野菜の売り場を増やす ウォーターサーバーを増やす 市内企業に環境配慮について情報公開を求める

食やエネルギーの自給率が高いまち

④ 自給率を上げる!

- ・地元の産物で買うことで物流コスト、CO2削減につながる。地域の経済がよくなる
- ・多摩市で可能な限り自給率は100%の自給率を目指す
- ・市民が地産地消の取組をスーパーでも行っているのを、広げる
- ・多摩市が地元産品の取組（コミュニティセンターや図書館）をつくり、様々な媒体（TV・デジタル）でPRする

リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだごみや無駄なロスがないまち

③ 消費者意識を高めることが大切

- ・製品の長寿命化・耐久化により、大量生産・大量消費社会からの転換を図る（GDPに依存しない経済）
- ・企業が透明性を高めて、部品などの寿命がどのくらいあるかを公表することが必要。環境負荷について積極的な情報を提供していく
- ・省、個人の電気製品を修理していただくように、高い保証金を入れて修理して、長く使ってもらえる
- ・修理の専門家やボランティアを増やす
- ・修理の専門家やボランティアを増やす
- ・修理の専門家やボランティアを増やす

② プラスチックを減らす

- ・プラスチックを減らす
- ・プラスチックを減らす
- ・プラスチックを減らす

① 市外の生産者や企業との連携が必要
稲城や八王子から
近隣の市町村と連携
市内の大きな企業日東電機ビル...

マイホトルが使った自給率がある
心理的な面が課題

どうやって
ペットボトルの
マイホトルへ転換させるか?

プラスチックを減らす
ペットボトルの削減
プラスチックの削減
プラスチックの削減

ごみ・資源循環

グループ 2

テーマ

ごみ・資源循環

多摩市環境市民会議 | 第5回 | 2023年7月29日(土)

他のグループからのコメント

- 紙では画に塗れた際にやぶれてしまいます。ではリサイクル
- プラスチック以外の資源の仕方は何があるか？一人一人がゴミを出さないようにするにはどうするか
- プラスチックゴミの量は本面にすごい量だね。減らしたいけど
- 2グループに見直しとは、具体的に何を見直すのか
- 文化にするというのは良いと思います
- 脱炭素の取組をする企業やNPOを応援し続ける取組は大事

プラスチックの取組は大事

プラスチックの取組は大事

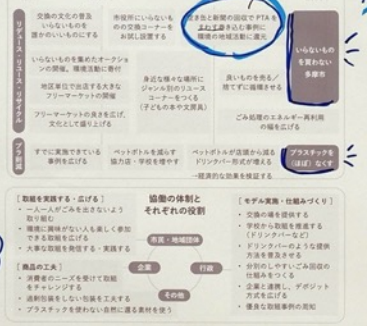
プラスチックの取組は大事

ごみ・資源循環

提言に向けたグループからの提案:

- モノを大切にすると気持ちも持って生活し、自分・家庭から行動することを大切にする
- 企業は、プラスチックや捨てやすいモノの製造・販売を見直し、環境に優しい素材を使った良い物をつくることを求める
- 行政は、モノの交換やプラスチックフリーなライフスタイルを身近な場所でも実現できる環境づくり(身近な例)
- を公民館から始め、市内に広げる
- 市民はフリーマーケットや、リサイクル活動を文化として良いものをつくっていく精神で取り組む
- いことを目指す

30年後(2050年)に向けたロードマップ

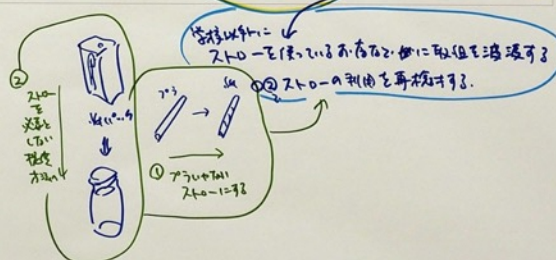


八割 | 暮らしの改善を促せる取組 | 身近な行動を促せる取組 | デジタル・シェア・フローを活かした取組

リデュース・リユース・リサイクル、シェアが進んだ ごみや無駄なロスがないまち

- リデュース・リユース・リサイクル
- 不要になるものは買わない、ゴミが出ることを減らす(リデュース・リユース)
- まずはゴミを減らすことが大事
- ゴミの削減がCO2削減につながる
- 必要な分だけ買うようにする
- 買っても使わなかったら分別する
- 消費が減っても売り上げが上がる
- 必要になるものは買わない、ゴミが出ることを減らす(リデュース)
- 使いたい人に譲る、贈りをする、リメイクする
- 買わない必要としない人がいない場合は公共施設に設置されている回収場所を活用する
- ゴミも無駄なく地域で交換できる場をつくる(フリーマーケットのような代議のある交換を)

- 使い捨てプラスチックの削減
- プラスチック製品を減らした生活を
- 使い捨て製品の製品としてゴミは分別する
- プラスチック消費を減らす
- プラスチックで包装されたものは減らさない
- 減らすのはもちろん、長持ちする素材や自然に還る自然素材でつくっているものを買う
- 製品のライフサイクルを長く、取り回し企業を増やす
- 使い捨てをなくするためにマイOCを
- マイOC、筆、容器、弁当箱、箸、ストロー、水筒など
- 環境のものでマイOCを消費して捨てる
- マイOCを減らすために、ペットボトルもマイOC方式にする
- 自動販売機の隣に設置される紙製マイOC容器がけいたラサイクルボックスを設置する
- 分別したくなる仕掛けにする
- 一部商業施設では既に実施しているので普及させる



グループ
3

テーマ

暮らし・住環境

他のグループからのコメント

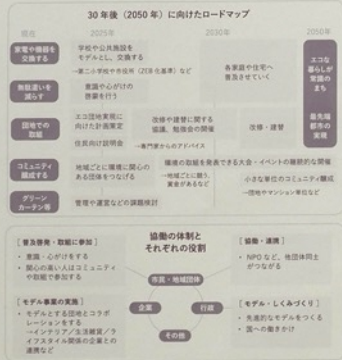
- モデルづくりという手順をふむのなら多くの方が理解してくれそう
- モデルづくり賛成!
- 多摩ならではの環境のオリジナリティは福祉を絡めたネーミングの方が多摩らしいかもと思いました
- コンポスト等できた増肥の出口戦略（畑がない）を解決することも必要かと思います

13の範囲にのびる

暮らし・住環境 (旧: 住まい・暮らし・健康)

提言に向けたグループからの提言:

- 私たち気候市民会議は、
- 多摩市が環境における最先端都市となり、**エコな暮らしが普遍である**まちを実現する
 - 市民1人1人の意識が高まるようなコミュニティを育む
 - 公共施設等の建築物から環境対策に取組み、まちとしての変化を見える化させる
 - 生活基盤である住宅等の建築物への対策を徹底することが社会へのインパクトをもたらすため、建築物における環境対策の義務化を行う



環境と経済に優しい住まいに暮らせるまち

住まいの取組

電気や暖房などの無断侵入につながる行動をなくす

- 断熱・心掛けをする
- 侵入のつけはしなくさない
- 決まりのしつけを促す

共有集合住宅・コミュニティ

経済的負担を減らすことができるエコ設備、集合住宅に改修し、環境に優しいコミュニティグループを構築する

ハード

- 自治会を通じて、環境の改善を促進させることができるエコ設備に取組める
- 環境の中にも断熱、防犯、防音などの機能が、電気料金が高くなるため、電気料金は丁寧に行う(分譲の場合、区分所有者の協力の取組が必要になる)
- 機材に改修を進めたい
- バリアフリー設備により、これからの建築・改修において、電気や暖房設備が必要な条件となるように義務化する
- 管理費、ガス・水道などの共有スペースを確保することで、各家庭でのエネルギー使用量を減らし、環境に優しいエネルギーを実現する
- モデルと設置付けたと念を促す

ソフト

- 自治会や集合住宅の両方から、電気や暖房などから環境について取り組んでくれる取組をつくる
- 多摩市からの「エコな暮らしの推進」を推進する「エコな暮らしの推進」を推進する
- 自治会や集合住宅では、自治会やコミュニティなどでも取り組めるようになる
- エネルギー削減が促され、自然と定着した。エコな暮らしが定着する前に結果、自治会からの取組が促されるようになる

みどり豊かな住環境が整った、健康的に暮らせるまち

- 緑が豊かな環境をつくることで、空気清浄機で健康づくりにつながる
- 管理の行き届いた緑の保全により、熱帯夜などの解消も実現し、健康的に暮らせる
- グリーンカーテンを育てて、エアコンの温度を上げるなどに取組むことで住まいのエネルギー効率を上げる
- 太陽光を育てて温度を下げる。育てることにより、自然への気づきを得る
- 日々のメンテナンスも大切で、育てた後の片付けも重要になる
- 緑が育つという課題もあるが、重要(しず)の方が取組がしやすい

団地や集合住宅でいい感じ

脱炭素生活を意識していい感じ

ハードとソフトを両方に取組む

コミュニティを推進

追加取組

本当に役に立つの? 散水ボイラーの設置

例) 大規模な改修はコスト削減が目的

取組

エネルギー



テーマ

エネルギー

多摩市気候市民会議 | 第5回 | 2023年7月29日(土)

他のグループからのコメント

- 確認と改善が大事というポイントは全テーマ共通するべきだと思います!
- イグループに「無理なく楽しく」が一番大切で良いと思います! PDCAサイクルを常にしているの場で行いますか?
- 省エネを進めよう
- エネルギー使用の見え方がいいね!
- 使っていないプールに雨水を貯めて、貯水施設にもできる
- 使わないものを有効活用できるような仕組みでも良いなと思いました
- 全体に使うためにエネルギーはどうするか? どのようにして配るか?
- 前回同じグループの他の人の意見で、どこかの場所をたくさんふむと発電できるというアイデアがあって、まさにそういう場所があると良いと思った
- 家庭で太陽光エネルギーを使っている事例を紹介
- 気候市民会議を毎年するだけでなく、参加する人を増やしたい!

エネルギー

提案に向けたグループからの提案:

- 私たち気候市民会議は、
- クリーンなエネルギーへの転換を図るため、多摩市内で再生可能エネルギー利用100%のまちの実現を目指す
- そのために、トライルに対してアップデートを絶えず、PDCAを大切に、気候市民会議のような場での発信を大切にして、無理なく、楽しく多くの市民の理解を得る



凡例 | まちと企業を繋ぐ取組 | 近所で行動を促す取組 | デジタル・シェア・フローを活用した取組

- 脱炭素なエネルギーをつくるまち**
 - 太陽光発電、パネルの製造から廃棄まで考えて広めていく
 - 製造から廃棄まで考えることで、他の環境問題の対策を考える際のモデルになる
 - 製造については産業として育てる。廃棄については環境への影響を少なくする
- 脱炭素なエネルギーを発電しているまち**
 - ごみやバイオマスなどを活用して、地域でエネルギーを発電し地域で有効に使う。エネルギーの地域地産地消の仕組みをつくる
 - 多摩市ではごみ処理場の熱をプールや公共施設などに利用している(再生エネルギーだが、ごみは燃やさない)
 - ごみを燃やさない(ごみ発電)
 - ごみを燃やさない(ごみ発電)
 - ごみを燃やさない(ごみ発電)
- エネルギー消費が少なく、蓄めたエネルギーをみんなが使えなまち**
 - 省エネ・蓄エネの取組を進める
 - EVのバッテリーを地域の個人で共同利用できるように仕組みをつくる
 - 家庭に蓄電池を導入する(ごみ発電、二重発電(効果的補助あり)とする)
 - 省エネ家電(LED照明)の取組を進める
 - グリーンカーターの取組を進める

多様性確保に?

SAP 燃料代替の引取率に... 蓄電池は...

多摩市と22区... 収集は... 22区... 22区...

- EVの普及を促進し住宅用に11ヶ所ほど蓄電池と22区用多量蓄電池の活用
- 太陽光の工費削減と水害対策のため蓄電池の活用

5

テーマ

移動

インクルーシブの視点追加

ベビーカー・車いすなど

他のグループからのコメント

- 市内を歩くメリットは? 脱炭素をおするために(H2O, H2, 電気) 自動車を安全に買ったり、使うには?
- 自転車ルールを緩くしないと、事故が起こってしまふと思う(誰でも乗れてしまうから)
- ワークラダーやワーキングのお知らせをよく見ますが、**市内のものをエリア全体でコンパクトにするとか? がら入ますよとか良いのがあります**
- シェアサイクルをもっと普及。坂が多いので電気自転車も少しだけエネルギー使って
- 車と自転車の走行レーンが分けられると便利
- 広く歩けるために「坂」の種類を進める。「坂」の名を復活させる
- ワーキングと雑談を結びつける。多摩市が歩道と車道が分かれているところが多くすぐできる
- 自転車レーンを増やすことに賛成。行政の働きかけが重要
- 多摩市は坂が多く、従来の自転車では移動するのが大変。電動だとCO2ゼロにはならないのでは? 水素走る車は2050年頃にはどれくらい普及しているの?
- 企業への求めるものはないのか
- シェアサイクル普及のため、各マンション、団地でステーション設置

企業に求めること

- 集り合いサービスをつくる
- 企業に自身体がまけて物販のありさ/通勤を楽にするサービスをつくる(都心は通勤しにくい)
- 3ミニサービスが基本

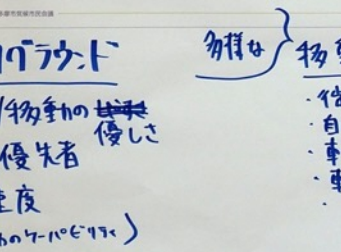
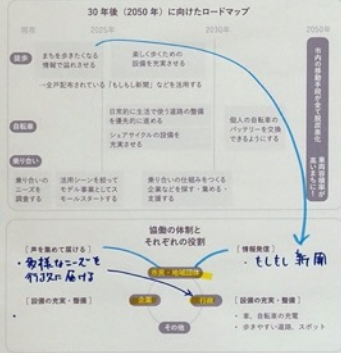
道の幅 傾斜の角度

移動

提言に向けたグループからの提案:

私たちが気候市民会議は、

- 市内の排出量が約14%である移動は脱炭素に向けて大事な分野だと考える
- 市内の移動手段の全てが脱炭素化していることを目指す
- 多様なライフステージやバックグラウンドを持った市民に合わせて、**様々な移動の場(施設)があることが大切だと考える** → **ベビーカー・車いす (歩行者で歩けない)**



歩き・自転車で暮らしやすい、コンパクトなまち

歩道

- 楽しく歩いて移動できる環境をつくる
- 歩道の整備を促すためのハード整備やソフト面の整備を推進する
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備

自転車

- 車の利用を減らし、なるべく公共交通や自転車を使う
- 歩道の整備を促すためのハード整備やソフト面の整備を推進する
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備

CO2を排出しない手段で移動している

歩行

- 歩道の整備を促すためのハード整備やソフト面の整備を推進する
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備

自転車

- 歩道の整備を促すためのハード整備やソフト面の整備を推進する
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備
- 歩道の整備、歩道の整備、歩道の整備

完全に自転車優先にする → 自転車

前段で自転車優先にする → 自転車

自転車に優先する → 自転車

移動手段

- 徒歩
- 自転車
- 車
- 車いす/ベビーカー

インクルーシブの視点追加

- 自動運転車の新技術の定額化 (社会基盤はX比の)

6. 教育・情報発信

多摩市気候市民会議

他のグループからのコメント

- 子ども、大人を取り混ぜた情報を共有することは大切だと思う
- 子どもが大人に教えるというのが新しく、良いと思いました
- 子ども側が大人に情報発信することは大事だと思った
- アニメーションなども使用したら良いのではないか？
- 学校は不特定多数の人の出入りはどうかと思うので、図書館でグループ会議ができるか公共施設の使い方を見直したいです
- 学校で学べることが大切
- 特定の年代に限らずやっていく事は大切だと思います
- 多摩市内のお店にQRコードつけて情報発信できたりするのいいですね
- QRコードをもらわない人にはどうするか？商品本体にキャッチコピー等を書いた方がいいのでは
- 環境教育、啓発、正しい情報、発信、理解が大事

教育・情報発信

提言に向けたグループからの提案：

私たち気候市民会議は、

- 気候変動対策の多様なテーマのなかで、すぐに取り組みたいと位置付けられる教育・情報発信を先んじて取り組み、2050年に向けたアクションの土台とする
- 気候市民会議で学んだことや大切なこと視点を次のステップに活かす。多くの市民に広げていくことが大切であるとする
- 自分の役割を定めていく(マインドセット)

STEP1: 知る・学ぶ (30年経過後の2050年)

- 先を見据えて、子どもを助けて子どもたちに気候変動を身近に感じてもらう学びの提供
- 今年度の子ども達に気候変動を知ってもらう
- 市民が「自分ごと」として捉えられるよう、動画教材・出張講座の仕組みをつくる
- 行政や企業だけでなく、個人でもSNSでの発信を推進する

STEP2: 気づく

- 学校の定数削減、生活習慣、学びの場づくりやコミュニティづくり
- 気候変動対策の取組が広がりに

STEP3: 思い・手育成と発信

- 若い人がたどる、発信するツールや取組が広がる
- 講座、認定資格、養成講座をつくり「私も伝えたい」人が輩出
- 発案に促すことで、取り組みたくなる動機付けも充実させる
- 若者も有識者であることが理想

取組提案

- 【情報収集と発信】
 - 若い人、SNSが得意な人たちがSNSで情報発信する
 - 海外向けに2つの言語でも発信したい
- 【選定ツールを使った発信・啓発】
 - 各店舗でQRコードや伝言板を使った気候変動対策の情報発信
 - 行政や学校と連携したツールづくりサポート
- 【連携の仕組みづくり、サポート】
 - 高校生のインターンを受け入れ、積極的なSNSでの情報発信
 - 地球都市アイスランドともコラボ、交換留学
 - 学校・教育機関や企業との連携
 - 学校の授業（カリキュラム）の実践
 - 高校生が企業の環境役員、行政審議会に出席

協働/連携

企業 | **行政**

気候市民会議

主体的な参加/協働

ex) 高校生 環境部 環境部 環境部 環境部 環境部

一人ひとりが気候変動対策を自分ごととして捉えている

- 様々な視点で気候変動の実現に向けた正しい情報・選択を市民、企業、行政、教育機関で共有する
- 気候変動の実現に向けて、何が正しいか分からない人へのアプローチとして、実態や最新のアクションの理解を深めることが大切
 - 深い議論やコミュニケーションを経ることでマインドチェンジする
 - 正しい情報や知識を得ることで市民が、企業や行政に関わるきっかけにする
- まずは自分の生活のことを「知る」ことから始めて発信を推進する
- 家庭内、親子間で情報共有するなど、気候変動の現状や自分たちの生活の実態を把握する
 - 食べ残し、買いすぎ、リサイクル、節水・節電、移動など、自分の生活で変えられること、プラスになることから行動する
 - 自らの行動が社会の節約や健康づくりにもつながり、モチベーションが維持できることが大切

小中学校から環境や気候変動についての教育が充実し情報発信を積極的に行っている

- 教育機関と連携し、取組を通じて知る・学ぶ・考える場やツールをつくり、コミュニティづくりにもつなげる**
- 高校生がつくる気候変動ゲームを小学校の授業で実践するよう、小学校・中学校・高校の教育現場で活用できる場やツールをつくる
 - 学生、大人、子ども向けにT-danceのような動画をコンペで募集するなど、SNSやYouTube、CM等のメディアを活用した情報発信を行う
 - 学校単位だけでなく、地域単位でも取り組むなど、各教育機関同士が連携し、学校の授業（カリキュラム）でも取り組めるような仕組みをつくる
- SNSで多摩市気候市民会議を国内外に発信し、将来的に環境や気候変動に関心のある市民が興味を持ってくれるように発信する**
- 多摩市での気候変動の正しい取組を発信し、ブランディングする
- 国内外に向けて「多摩市大人の気候アクション」で「環境都市多摩」をアピールする**
- エコプラザ、ダストシュー、清掃工場、市庁舎改修を見学し、海外を含む都市にアピールしうで取組を推進する
 - 連携のツール化、人感センサーによる省エネ化
 - 海外への発信が、異なるネットワークやムーブメントづくりにつなげる

気候市民会議の結果を発信する。

【気候市民会議】
↓
気候市民会議の結果を発信する。

企業・運営

グループ テーマ

7.

多摩市気候市民会議

他のグループからのコメント

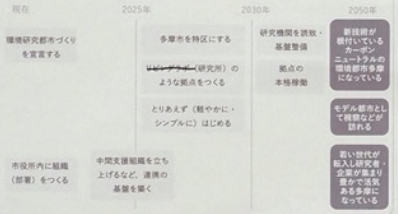
- ・エネルギー分野とも上手く連携したいですね
- ・NPOをどう採るか。NPOをどう関わらせていくのか
- ・“企業と自治体の連携”は地味なので、アプトアップされた場所があるといいかもしれません

イノベーション・新技術・研究

提言に向けたグループからの提案：

- ① 私たち気候市民会議は、
1人1人が当事者として、将来世代を含めて暮らしの質を向上させるために、
市民、行政、企業、学校など、あらゆる主体が参加・協働・連携して共創し続けること。
新しい技術や社会の仕組みの実験的な挑戦によって、
イノベーションや新技術による脱炭素社会を実現させることを目指し、共に進める。

30年後（2050年）に向けたロードマップ



- 協働の体制とそれぞれの役割**
 - 【参加する】
 - 理解を示す、支持を表明する
 - 実験に協力する（リビングラボに参加する）
 - 選挙で必ず一議席へ
 - 【技術開発】
 - 新技術を開発し実験を実施、標準化して製品化を目指す
 - 取組を市民にしっかり伝える（情報発信）
 - 【共創する】
 - 環境について知る、学ぶ、考えるアイデアを出すなど異色の場に参加する
- 企業、協議会、行政**
 - 制度、仕組みをつくる
 - 宣言する、条例をつくる
 - 組織規定を変える
 - 実証実験のガイドラインをつくる（民間等の実証実験の補助）
 - 取組の環境基盤を整える
 - 市民・企業に対して情報開示する
 - 規制緩和など行動を促進、誘致する制度を整える
- 学校、大学、研究機関、NPOなど**
 - 【コーディネーターする】
 - あらゆる主体が参加・協働・連携できる場を運営・共創をコーディネートする

凡例 | まちと企業を繋げる取組 | 身近な行動を変える取組 | デジタル・シェア・フローを活かした取組

企業や大学等との連携を活かして気候変動対策を加速させている

- ① CO削減、の技術会社に開発したり、ユーザーになるなどで、協力・応援する
 - GXに携入た新しい取組に賛同を示し、応援していることを伝える
 - 税金となるなどして、企業を応援する
 - 地産地消のエネルギーのユーザーになる
 - 社会実験などに参加・協力する
 - 個人も起業、製品化、サービス化して環境で儲ける
 - ② 新技術を持つ脱炭素に取り組む事業者への法人税減免などの優遇措置、社会実験
 - ごみの分別による再資源化・エネルギー化、バイオマス発電、再生技術を導入する企業を支援する
 - 個人の脱炭素行動を誘発するポイント制や、事業者向けの税制免除・優遇措置を設ける
 - GX投資の利益に優先して個人の資産形成もはかる
 - 学校や社会実験を活用し、まちの機能更新をはかる
 - 若い人や研究者などの転入を促進する
 - ③ 炭素税のように、CO排出量を商品価格と連動させる
 - 一部商品（食品の製造、消費のCO2排出量に応じた税金の課金（例：ごみ有料化））
- 環境研究都市づくり
- ① すでに新技術を生み出す環境研究都市づくり「Test Town TAMA」として、研究開発を誘致し、大学等と連携して社会実験や取組を実施する
 - ② 住宅地としてエネルギー・食料を消費するだけの「ベッドタウン」を付加価値創造のまちにする
 - ③ 実証実験の受け皿、情報発信の拠点となる「ラボ」をつくり、市民・行政・企業・学校などが参加し、社会実験を実施する
- 【関連テーマ：ごみ・資源循環】
- 【関連テーマ：全庁テーマ】
- 小社は社会でイノベーションの中心になることを目指して、取組を促している